



## あじさいⅡ



平成26年 10月 第12号

全国的に平年を大幅に上回る降雨量と日照不足に見舞われ、特に広島では、土砂崩れで多くの犠牲者が出るなど甚大な被害を被った八月も終わる三十一日に湯沢市で第五十六回手をつなぐ育成会秋田県大会が開催された。県内各地の育成会（親の会）や施設等から約三百七十名の関係者が集まった。当親の会からも光爾君と武輝君をはじめ七名が参加した。

### 第五十六回県大会

（湯沢・雄勝大会）に参加

開会式典の後は「市民後見制度について」織田湯沢市地域包括支援センター所長の講演。これまでは弁護士など司法関係者が後見人となる方法について学習してきたので、市民後見制度は新しい知識となり大きな収穫であった。

続くシンポジウムは、大会スローガンの「地域社会と絆を深め、安心して暮らせる共生社会をめざす」に合わせ、本人たちが地域と関わって活動している事例の紹介であった。各地、各施設からの報告内容については、鹿角（市と町）ではその殆どを花輪ふくし会で受託し障害者センターが核となって実施されているものであった。アトラクションの西馬音内盆踊りは、いつ見てもその独特な衣装としなやかで優雅な手指の美しさに感動してしまう。

今大会では、木村光江さんが会長表彰を受賞された。おめでとうございます。これからも情熱をもって当会の拡充・発展に寄与していただきたい。

県大会の課題は、「旧九市持ち回り開催」の見直しではないか。



これまでの持ち回り大会を振り返ると、第一に運営資金調達のために協賛企業を回ることが大きな負担となっていること。第二に会員の高齢化が進み、行動力等が鈍化してきていること。第三に行政や福祉団体からの支援が厳しくなってきたことなどが重荷になっているようだ。

県育成会には、こうした現状を踏まえて、今後の大会運営について話し合っって貰いたいものだ。

